

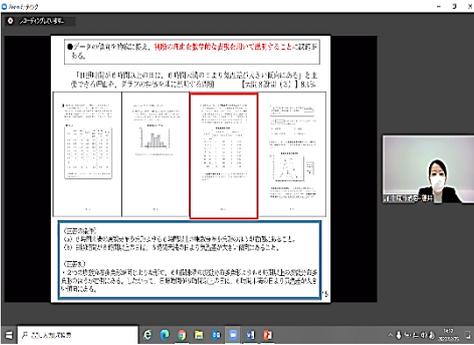
# 令和3年度第3回庄原市「学びの革新」推進協議会

令和4年2月25日(金) 各校でのオンライン研修

「本市児童生徒の『主体的な学び』を促進する教育活動を推進するとともに、学校全体での組織的なカリキュラム・マネジメントの実現に取り組むことにより、児童生徒の資質・能力の向上を図ること」を目的に、研修会を行いました。

## 【講話・交流】「各種学力調査について」

庄原市教育委員会 指導主事 藤井 遼



○全国学力・学習状況調査及び庄原市一斉学力調査結果について、全国平均や目標値との比較等の説明を行い、その後改善に向けて交流を行った。

- ・設問ごとの正答率や解答類型による分析から、令和3年度の取組を振り返り、次年度へ向けて組織的な取組を行う必要がある。
- ・校内研修プログラム「IPPO(いっぽ)」や「WEB 評価支援システム」のフォローアップシステムを有効活用する等、正答率30%未満の児童生徒への取組の充実を図る必要がある。

## 【実践発表・協議】「小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業の取組について」

庄原市立東城小学校 教諭 川村 祐貴  
庄原市教育委員会 指導主事 片山 博子

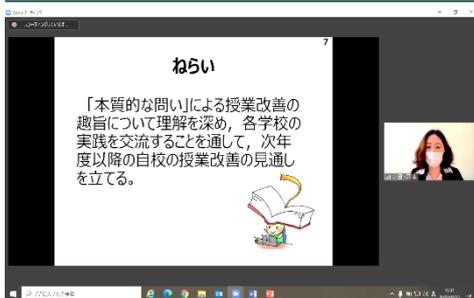


○庄原市立東城小学校における「低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業」の1年間の取組を発表した。

- ・児童の実態をもとに、つまずきの要因を分析し、そのつまずきに対する具体的な手立てを全職員で考えた。サポート教員による授業記録をもとに、児童の実態を丁寧に見取り、手立ての改善に向けて検証を行った。
- ・「学びの基盤に関する調査」で明らかになった課題について、考える必然性のある問題を提示する等授業改善に取り組んだ。

## 【交流・講話】「今年度のまとめと来年度に向けて」

広島県北部教育事務所 指導主事 寺本 佳子



○今年度、各校で取り組んだ「本質的な問い」による授業研究について、学習指導案等をもとに交流を行った。

- ・「本質的な問い」から各教科等の「見方・考え方」を踏まえた「単元を貫く問い」を立て、単元計画を工夫することにより、一問一答の知識の教授に偏った授業から脱却し、児童生徒が各教科等の「見方・考え方」を働かせながら自ら思考を深め、「主体的・対話的で深い学び」を実現することができる。

## 【参加者の感想等】

- ◆学力調査結果の分析から把握した自校の児童の課題について、個別のつまずきにもしっかり目を向けて取り組んでいく。また、効果的に取り組むための体制づくりを検討していくことが大切であると感じた。
- ◆東城小学校の取組から、児童のつまずきの要因を全体で確認し、組織的に取り組むことが大切だと感じた。組織的な取組となるように授業交流等を定期的に行い、児童の実態を交流する場をもちたいと感じた。
- ◆「本質的な問い」とは、どのようなものなのか悩んでいたが、他校の実践を聞く中で、生活との関連を意識することや、各教科等の見方・考え方を生かすことが挙げられており参考になった。学習指導要領をもとにしながら、この点も、今後意識して研修していきたいと感じた。
- ◆単元構想シートを活用して、児童が主体的に学ぶことができる学習活動を仕組んでいき、その中に児童の期待される姿を設定していく。